

～時間の中の建築・建築の中の時間～

東日本大震災から1000日が過ぎ、ようやく復興の兆しがうかがえる状況になって来たとは言え、未だ々多くの課題が山積する中で新しい年を迎えました。今を生きる我々にとって先行きは依然として不透明な感がある中で、確かな道を探ることも大事なことであります。今般、近代建築史や建築設計の分野で近代技術文明に厳しく問いかけをされている松隈 洋先生をお招きし、下記により講演会を開催致しますので、多くの皆様に参加いただきますようご案内申し上げます。

講師

まつくま ひろし  
松隈 洋 氏 (京都工芸繊維大学教授)

プロフィール

1957年 兵庫県生れ  
1980年 京都大学工学部建築学科卒業  
同年 前川國男建築設計事務所に入所  
2000年 京都工芸繊維大学助教授  
2008年 京都工芸繊維大学教授



《略歴》専門は近代建築史、建築設計論。2000年よりDOCOMOMO Japanメンバー。2013年5月より同代表。2005年～2006年「生誕100年・前川國男建築展」実行委員会事務局長を務める。主な著書に『ルイス・カーン—構築への意思』(丸善)、『近代建築を記憶する』(建築資料研究社)、『坂倉準三とはだれか』(王国者)、『残すべき建築—モダニズム建築は何を求めたか』、共著に『再読／日本のモダニズム—アキカキ』(影国社)、『日本建築様式史』(美術出版社)、『近代日本の作家たち—建築をめぐる空間表現』(学芸出版社)、『関西モダニズム再考』(思文閣出版)、『原発と建築家』(学芸出版社)、編著に『前川國男—現代との対話』(六耀社)、共編著に『建築家・前川國男の仕事』(美術出版社)など。展覧会キュレーションに「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(神奈川県立近代美術館、2000年)、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO100選」展(松下電工汐留ミュージアム、2005年)があり、レーモンド、坂倉準三、シャルロット・ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾など数多くの建築展の企画にも携わる。東京理科大学、京都造形芸術大学非常勤講師、文化庁国立近現代建築資料館運営委員。

- ・開催日時 平成26年3月11日(火) 15:00～17:00 (受付14:30より)
- ・場所 琵琶湖ホテル 3F るりの間 大津市浜町2-40
- ・定員 100名
- ・参加費 1,000円 (学生は無料)
- ・主催 一般社団法人滋賀県建築設計家協会 公益社団法人日本建築家協会近畿支部滋賀地域会  
一般財団法人滋賀県建築住宅センター
- ・共催 公益社団法人滋賀県建築士会 一般社団法人滋賀県建築士事務所協会  
滋賀県建築設計監理事業協同組合
- ・JIA CPD 2単位 JIA、建築士会員でCPD取得を希望されます方は、受付で氏名・建築士登録番号又はCPD登録番号を申し出下さい。
- ・申込方法 下記の申込書によりお申し込み下さい。【締切3月4日(火)】  
電話でのお申し込み可 【TEL 077-522-1460】
- ・問い合わせ先 一般社団法人滋賀県建築設計家協会

15:00～15:10	開会挨拶	一般社団法人滋賀県建築設計家協会 会長 中山 正勝
15:15～17:00	時間の中の建築・建築の中の時間	京都工芸繊維大学教授 松隈 洋

講演会参加申込書

FAX 送信用 (077-526-0918)

所属名

氏名

TEL